芸術による地域創造研究所　活動報告書

所　長　渡 邊　　晃 一

〇研究活動内容

Ⅰ　福島大学芸術による地域創造研究所の概要

１．研究テーマ・目的

・地域の活性化に関する実践的研究

・芸術による文化活動を通じた街づくり

〇今年度の主な研究メンバー

芸術による地域創造研究所は、学系の専門的領域を横断した学際的な研究を推進し、県内の文化施設の研究員によって構成される複合的な組織。

＜研究代表者（研究所長）＞

人間発達文化学類	渡邊晃一

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞

人間発達文化学類	初澤敏生
人間発達文化学類	天野和彦
行政政策学類	久我和巳
	田村奈保子
共生システム理工学類	永幡幸司（監査）

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

福島県立博物館・主任学芸員	川延安直
福島県立博物館・主任学芸員	小林めぐみ
福島県立美術館・主任学芸員	増渕鏡子
郡山市立美術館・主任学芸員	杉原聡
東京学芸大学・准教授	笠原広一
福島学院大学・教授	佐藤昌彦
会津大学・教授	柴崎恭秀
宗像窯窯元／陶芸家	宗像利浩
NPO 法人コモンズ・理事長	中里知永

２．研究概要

芸術による地域創造研究所は、学系の専門的領域を横断した学際的な研究を推進し、県内の文化施設の研究員によって構成される複合的な組織である。研究内容としては以下の７件があげられる。

⑴ **芸術文化による街づくりの意義に関する研究**

⑵ **芸術文化を通じた地域の活性化の事例研究**

・国内外の事例収集

・成功要因の分析、調査

⑶ **県内モデル地域における文化政策研究**

・地域文化資源の洗い出しとネットワーク化の研究

・地域産業と連携した研究支援

・デザイン（新たな商品開発，ブランディング）

⑷ **アートイベントの企画と運営による実践研究**

・芸術祭の企画監修、アドバイス

・モデル地域における芸術企画の実践研究

今年度の実践研究

白河市「風月の芸術祭」

⑸ **芸術文化による国際交流**

・ビエンナーレ、シンポジウム

⑹ **東日本大震災後の復興における支援活動**

・「鯉アートのぼり」

・「緊急災害時のユニバーサルデザイン」

今年度の実践研究

・経済産業省：ハマカルアート「鮭アートのぼり」

⑺ **学生の学習効果の検証**

・演習：「芸術企画演習」

・講義：「現代アートマネージメント」

II. 令和６年度の研究報告

１．研究テーマと概要Ａ

芸術企画の受託研究

・県内モデル地域における文化政策研究

・アートイベントの企画と運営による実践研究

１）「福島ビエンナーレ2024
～風月の芸術祭in白河～」

① 目的

福島大学との協働により、白河市の歴史や文化を基盤とした芸術作品（絵画、彫刻、書、文学、舞踊、映画等）の創作、鑑賞、体験等の機会を創出することで、市民が地域や文化芸術に対する関心を高め、地域に芳醇な文化を実らせることを目的とする。さらには、市民参画により運営することで人づくり、まちづくりを推進し、全国にPRし集客を図ることで人的交流や観光振興、経済活性化を推進する。

② 研究期間

令和６年４月１日～令和７年３月３１日

③ 受託事業費

850,000円

（直接経費765,000円　間接経費85,000円）

④ 事業事務局

〒961-8602　福島県白河市八幡小路7番地１

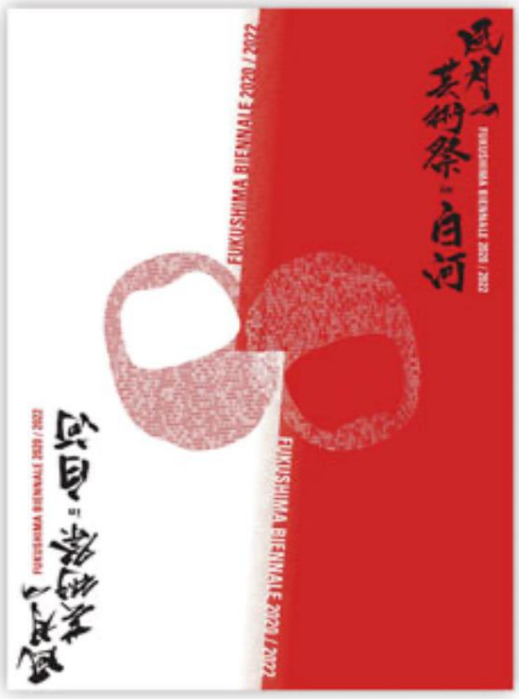
⑤ HP

https://shirakawa-art.com/news

⑥ 主な内容

本企画は白河市の歴史、自然と文化を基盤にして展開した現代アートの芸術祭である。

ビエンナーレ（隔年）の 2020 年、2022 年に続き、2024 年も白河の伝統的な地域文化と国際的に活動しているアーティストの作品展示やワークショップを結びつけ、世界に向けて発信した。白河市の PR（Public Relations）とともに、地域の次代を担う子どもたちをはじめ幅広い年代の人々に、芸術文化に触れる機会を継続的に提供した。



◆「福島ビエンナーレ」とは

2004 年から本研究所が中心となり、福島県内の地域住民と「ビエンナーレ（隔年）」で開催されてきた現代アートの芸術企画。これまで県北（福島県文化センター、福島市、二本松市）、県中（福島空港、須賀川市）、会津（湯川村、喜多方市）、相双（南相馬市）で開催。2020 年度は白河市で産官民学の協働によって展開。人々が幅広く「藝術」に触れ合えると同時に、白河市ひいては福島県の歴史と伝統を通して、未来を担う子どもたちに向けて地域文化を活性化する一役を担っている。

◆「風月」というタイトル

「風月」というタイトルは、江戸時代の白河藩主、松平定信公の雅号に由来する。自然を愛で、文化を享受した松平定信の「士民共楽」の精神を受け継ぎ、白河市に関連する城下町の歴史・文化を学びながら、新たに国際的なアーティストと地域住民との協働によって展開した。「風月」は清風と明月と解される。秋の自然、風物に親しむことや、風流に親しんで詩歌を創作すること（才能）であり、英訳すると「beauties of nature」。風月

を友とする「converse with nature」の意味がある。

◆「起（Rise）」のテーマと白河の歴史と文化

今年の芸術祭は、これまでの「祈／Prayer」(2020)や「境／Borderless」(2022)を引き継ぎ、「起／Rise」をテーマに開催した。

「起」は、白河の伝統的な「だるま」の七転八起とともに、起立や起動などの上昇志向や、起源や縁起などの＜相依性＞（そうえしょう）などと関連する言葉である。＜相依性＞は、あらゆる事物はそれ単独で成り立ち、存在しているのではなく、他と「相」（あい）互いに「依」（よ）り合うという、関係において成り立つ意味がある。立ち上がり、前進して活動することと、縁起として多様な世界と関わることの二つの意味を「起」は含み持っている。「rise」にはまた、高めるや育てるという意味も込められている。

⑦　主な実施概要

◆展示の種類

平面、立体、インスタレーション、VR、
写真、ビデオアート、映像メディア（映画）

◆展示アーティスト

ヤノベケンジ×ダルライザー／小松美羽／妖組（飯野和好×関本創×福島大学）／
アヤ・カザリス／吾子可苗／井波純／金子富之／北村はるか／木下史青／黒沼令／鴻崎正武／シャズリン・サイラ／ボンド亜貴／林剛人丸／森合音／与那覇大智／艾沢詳子／若木くるみ／千葉清藍／大竹京／鳥山玲／白鳥健二／／ヒュッメリッヒ・マライケ・ゾエ／リチャード・ボンド

アートだるま（2020～）
荒井経／伊藤公象／伊藤有壱／今井トゥーンズ／岡村桂三郎／カネコマスヲ／小澤基弘／五味太郎／齋藤岩男／柴﨑恭秀／鈴木美樹／野沢二郎／灰原千晶／萩原朔美／福井利佐／船井美佐／三沢厚彦／宗像利浩／山田慎一／渡邊晃一／王尽遥
参加学校：福島大学／白河高校／白河第二高校／白河旭高校／白河中央中／白河第二中

◆会場

マイタウン白河、白河文化交流館コミネス、しらかわ観光ステーション、コミュニティカフェ EMANON、旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷、白河市立図書館りぶらん、南湖公園、南湖翠楽苑、だるまランド、谷津田川、龍興寺

◆主催　風月の芸術祭実行委員会

◆共催　白河市、白河市教育委員会、
福島大学 芸術による地域創造研究所

◆後援

福島県、福島県教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、河北新報社、福島リビング新聞社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、白河文化交流館コミネス（指定管理者NPO法人カルチャーネットワーク

◆助成

令和６年度福島県地域創生総合支援事業、
令和６年度芸術文化振興基金助成金事業

⑧　関連事業

講演会「祈りとホスピタルアート」
講師：森合音
日時：8 月 24 日
会場：白河市立図書館りぶらん

講演会「妖怪おはなし会」
講師：飯野和好、関本創
日時：8 月 24 日
会場：白河市立図書館りぶらん

イベント「妖怪屋敷体験」
日時：8 月 24 日
会場：白河市立図書館りぶらん

映画上映「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」
日時：8 月 25 日～27 日
会場：コミュニティカフェ EMANON

ワークショップ「白鳥さんとアートを見にいく鑑賞会」講師：白鳥健二
日時：8 月 26 日

会場：マイタウン白河、龍興寺、南湖公園ほか

ワークショップ「谷津田川アートワークショップ」
日時：6 月 15 日～7 月 28 日
会場：谷津田川、サンフレッシュ白河ほか

ワークショップ「「キメラ神獣だるま☆をつくろう！」
講師：鴻 崎 正 武
日時：8 月 11 日、9 月 15 日
会場：マイタウン白河、龍興寺、南湖公園ほか

特別展示「Here and There」
講師：林剛人丸
日時：9 月 8 日
会場：白河文化交流館コミネス小ホール

鑑賞会「まち歩きアート鑑賞会」
日時：9 月 6 日～10 日
芸術祭会場

２）経済産業省 ハマカルアート 採択事業
「鮭アートのぼり」

① 目的

福島県の浜通り（相双地区）では双葉郡の木戸川をはじめ、秋になると多くの鮭が海から生まれた川へと戻ってきた。江戸時代は自然保護のために乱獲を禁止し、明治には全国でもいち早く稚魚を川に放つ活動がなされてきた歴史もある。

「鮭アートのぼりプロジェクト」では、福島大学の芸術・表現コースの学生が中心となって、ワークショップを各地で開催した。また世界中からも広く作品を募集し、東日本大震災・原子力災害伝承館をはじめとした福島県内で作品を展示。福島の豊かな自然と子どもたちへの想いを重ねて、「鮭」をモチーフとしたアートのぼりを各地で展開した。

② 研究期間

令和6年10月1日～令和7年2月14日

③ 受託事業費

経済産業省「地域経済政策推進事業費補助金（映像芸術文化支援事業）」
ハマカルアートプロジェクト補助金
：5,000 千円（執行 3,378 千円）

④ 事業内容

展示：1 月 11 日～3 月 11 日
東日本大震災・原子力災害伝承館
ワークショップ：富岡町（えびす講市）、楢葉町（木戸川漁協）、双葉中学校、いわきアリオス、なみえ絆二本松（石倉団地集会所）ほか

⑤ HP

http://wa-art.com/salmon/

３） 「かがくいひろしの世界展」
(福島県立美術館での展示及びWSの支援事業)

① 概要

福島県立美術館企画で開催された「かがくいひろしの世界展」は、『だるまさん』シリーズで知られる絵本作家、かがくいひろしの創作活動の全貌を紹介する展覧会である。だるまと言えば、白河市の「白河だるま」に代表されるように、福島県民にとってはなじみ深いモチーフでもある。折しも今秋開催された「福島ビエンナーレ　風月の芸術祭in白河2024」では、白河だるまと美術家とのコラボレーションの「アートだるま」が展示され、話題を集めた。そこで関連展示として、アートだるま作品の展示を行った。15名の作家による作品を展示し、現代もなお愛され続ける「だるま」の魅力を紹介した。

② 出品作家

吾子可苗／荒井経／飯野和好／伊藤有壱／大竹京／岡村桂三郎／黒沼令／鴻崎正武／小松美羽／五味太郎／柴崎恭秀／鈴木美樹／福井利佐／船井美佐／渡邊晃一

③ 会期

2024 年 2 月 1 日～28 日

④　会場：福島県立美術館 エントランスホール

⑤　主催：福島県立美術館

協力：福島大学 芸術による地域創造研究所
風月の芸術祭実行委員会、
白河だるま総本舗渡辺だるま店、
おしだアート工房

２．研究テーマと概要Ｂ

東日本大震災後の復興における支援活動

①　事業題目

震災復興の幟旗　「鯉アートのぼり」

②　目的

東日本大震災後、福島大学　芸術による地域創造研究所では幼児、小学生にたいするアート支援プログラムとして、「鯉のぼり」を復興のシンボルになぞらえ、震災後の支援活動を実践してきた。

鯉は里の魚である。里は「田(農地)」の神を「土(杜)」で祭る意味がある。急流の滝を登りきる鯉は、登竜門をくぐり、天まで昇って龍になる「登竜門」(古代中国の故事）を元に、江戸中期には、庶民が絵幟の「鯉の滝昇り」から吹流しの「鯉幟」を開発した。福島では今も端午節句に伝統的な肉筆（手描）の「幟旗」を飾る伝統があり、福島県指定の伝統的工芸品となっている。「鯉のぼり」は、江戸初期から描かれてきた最も古い図柄の一つであり、子どもたちの立身出世、成功祈願の意味が込められている。鯉が龍となるように、明日に向かって登るエネルギーを、子どもたちと一緒に育くんでいく象徴的な意味合いも持つ。

本企画を通して、子どもたちの内なる思いを発露させると同時に、福島の子どもたちと互いに関わりをつくる活動を行ってきた。福島住民にとって余震や放射能という「目に見えないもの」の影響力、不安な気持ちを、美術という「目に見えるもの」の力によって勇気づけ、支援する活動。

③　展示場所、期間

・東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）
　令和6年3月11日～5月31日

・福島市（パセオ通り）
　令和6年5月1日～令和6年5月31日

３．今後の展望

今年度は白河市や浜通り地区の双葉郡を中心に、福島の伝統文化をキーワードに様々な企画を開催した。

地域づくりと「21 世紀の新しい生活圏」の創造を目指す本事業は、福島と芸術文化の関わりを通し、地域の文化活動を様々な角度から支援する機会を提供するものである。若い人たちが幅広い芸術活動に触れ合い、交流する機会を促進する上で、福島の新しい地域創造に積極的に関与し、学生が地域文化を考える契機ともなってきた。

2024 年度は東日本大震災後、14 年を迎えた。福島県は原子力発電所の事故によって、伝統的な文化が失われつつある中で、福島県では様々な取り組みを行っており、本研究所もその活動に支援してきた。

福島大学芸術による文化創造研究所は、今後とも現代の芸術活動をソフトの面から支援し、これまで構築した人のネットワーク、文化施設、産・学・官の連携により、福島からの文化発信の基盤を作っていきたい。